

マダニにかまれるとヤバイで！

法西 浩

(ひとく地域研究員)

マダニにかまれたのよ

2013年6月3日三田市香下(かした)に前日仕かけたオサムシトラップ(落とし穴)を回収。森を出たとき、左手背に2mm位の褐色の砂粒状のもの3個、さらに手腕関節部腕時計の下に4mm位のもの1個が付着。よくみるとマダニの1種。小さい個体は指で触れるとすぐ落下。大きい個体は殺虫剤を浸した綿花を覆うと草むらに落ちた。翌日から数日間手の甲がパンパンに腫れた。痒み・痛みはない。その後体調に変化なし。

マダニの標本作製

さらに、9月9日三田市加茂加茂山第2公園付近で、オサムシトラップを回収した。右手の長袖の先端に体長6mmのマダニ種(種不明)がとまっていた(写真:1)。



写真:1 マダニ種

マダニにかまれると、なぜこわいの？

6月兵庫県内で初めて豊岡市で70歳代女性が、ウイルスを持つマダニにかまれて発症し、死に至ることもある「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」に感染していることが報じられた。

SFTSはどんな病気？

かまれてから発症するまで、1~2週間・主に発熱や嘔吐、腹痛や下痢などの消化器の症状・頭痛や筋肉痛・リンパ節の腫れ・さらに進んで血小板や白血球が減少し重症化し、抵抗力が低下・特効薬はなく・対症療法で回復を待つしかない。私、県下第1号にならなくてよかったね。

マダニとは

マダニは衣類などに生息するイエダニとは違い、野生動物シカ、イノシシ、猟犬などに付着することで野山などに生息する。約40種いるマダニのうち、主として3~4mm程度のフタトゲマダニなど数種がウイルスを媒介する。

SFTSの最新情報

SFTSは2013年8月29日までに、厚生労働省研究班の調査で、これまでに近畿・中国・四国・九州など、西日本の13県で39人の患者が報告され、うち16人が死亡したという。厚生労働省は今春以降、マダニのウイルス保有状況や野生動物の抗体保有状況から、まだ感染のない地域からも今後感染者の増加がみられるようになるという。

生態系の乱れとマダニの増加の関連性は？

今、生態系が大きく乱れている。野生動物が殖えている。それに伴い作物の被害も甚大である。野生動物の増加に伴い、マダニも増えた。これからどうなるのだろうか。

今わかっているSFTSウイルスの感染拡大の情報は、患者報告がある地域が兵庫県・岡山県・島根県・広島県・山口県・徳島県・高知県・愛媛県など13県。マダニからウイルスが確認された地域が山梨県・静岡県・福井県・和歌山県・兵庫県など9県。動物に感染歴を示す抗体が確認された地域が三重県・和歌山県・島根県・広島県・山口県・徳島県・福岡県・宮崎県など16県。(神戸新聞2013年8月30日マダニウイルスの分布より)。

これからもさらに感染拡大が見られるようになるだろう。

マダニにかまれないようご用心を！

山に入る際、または草むらなどの屋外での作業は長袖、長ズボンで皮膚を露出させないこと。帰宅後は入浴してマダニが付着していないか確認し、見つけたら医療機関で医師に取ってもらるのがよい。潜伏期間中に諸症状(前述)がないか注意してほしい。

校閲には、田中哲夫先生にたいへんお世話になった。厚くお礼を申し上げます。